

会社名：

有限会社 みの紙舞

ものの生産者

会社概要・事業内容

【会社概要】

所在地：岐阜県美濃市本住町1917

創業：平成13年

代表者：市原慶子

【事業内容】

- ・和紙製品の開発、販売
- ・美濃市あかりアート展後援

【概況】

■創業までの動き

代表の市原さんは、元々社会福祉教育の関係で県に勤めていた。しかし、このままでは思うような活動ができないと考え、大学に戻り、その後アメリカの大学院へと進んだ。その時、留学先の教授に、日本の文化について講演をしてほしいと頼まれ、故郷の美濃和紙について講演を行ったところ、予想以上に反響を呼んだ。

帰国後、ベンチャー企業としてみの紙舞を設立し、美濃和紙についての研究を進め、和紙を繊維状にする独自の加工技術を開発することに成功した。

■創業からの活動

創業後は、ファッションショー向けのウェディングドレスから、生活に密着した靴下、タオル等の製造まで幅広い商品開発を行っている。靴下は、オリンピックの自転車競技の代表チームでも採用されるなど、生活だけでなくスポーツの分野にも広がりを見せている。天皇陛下にも、靴下の履き心地を認められ、定期的に商品を納めている。

その中でも、ウェディングドレスは、ファッション界でも「シャネル」「クリスチャンディオール」と並び、トップクラスの評価を得ている。当然和紙のファッション界では堂々の世界一である。数年前には、世界3大ファッション美術館である「神戸ファッション美術館」にて個展も行うなど、その芸術性は世界に認められている。



■現在

代表の思い通り、美濃和紙の文化は世界に広まっている。ドイツなど海外政府から招かれ、商品の紹介や講演を行っている。また、安倍政権の成長戦略の一つである、「クールジャパン」に採択され、アニメや漫画等と同様に海外へ展開していくことが決まった。今後も、ドバイのデザイナーとコラボレーションするなど、美濃和紙を使った商品開発を行っていく予定である。

【経営理念】

美濃和紙という伝統文化を現代につなぎ、世界に広める

【地域社会への取組】

美濃和紙の加工技術は、みの紙舞の開発したものであるが、商品の製造や原料となる和紙の製造はすべて美濃市で行っている。これは、みの紙舞だけが利益を上げたとしても、いずれ美濃和紙は衰退していつてしまう。当社だけでなく、美濃和紙に携わる皆さんの利益になるようにしたい。という代表の考えによるものである。

毎年10月に美濃和紙あかりアート展が行われているが、その審査員や出品も行って。地元の小学生から、プロのデザイナーまでが参加するこのあかりアート展も美濃和紙を広め、発展させていくための重要なコンテンツである。



担当者様からのメッセージ

初めは、水に弱く、耐久性がない和紙で衣類を作ることは無理だと思われていました。それでも、諦めずに試行錯誤する中で無理だと言われていたことでも実現することができました。高校生の皆さんも、周りから無理だと言われた経験や、自分で無理だと思って諦めてしまうことがあるかもしれません。それでも、諦めずにチャレンジする気持ちを持って欲しいと思います。

若い皆さんは、伝統を古いと感じるのではなく、自分達の住む日本の素晴らしい文化であることを、誇りに思ってください。また、今度はその文化を自分達が未来へつないでいく担い手であることを忘れないでください。